

資源管理に必要な情報の提供事業

定置網漁獲統計調査

中瀬優・岡田誠

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贅・方座・錦・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の15漁場を対象に平成22(2010)定置年度(平成22(2010)年10月～平成23(2011)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成22定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成22(2010)定置年度の総漁獲量は5,740トンで前年度比98%であった。魚種別ではサバ類が1,053トンで全魚種の18.4%を占めた。次いでブリ(6kg以上の銘柄)が1,001トン、マアジ561トン、ワラサ(2～6kgの銘柄)511トン、イワシ類(分類されていない分)459トン、カタクチイワシ371トン、スルメイカ226トン、シイラ214トン、イサキ137トン、マルソウダ106トンの漁獲があった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、ウマヅラハギ(前年度比7.2倍)、ヤリイカ(同4.8倍)、サワラ(同3.1倍)、マイワシ(同2.8倍)、カワハギ(同2.5倍)、ボラ(同2.4倍)、スルメイカ(同2.0倍)、ムツ(同2.0倍)、シイラ(同1.9倍)、アオリイカ(同1.9倍)、カンパチ(同1.7倍)、サバ類(同1.6倍)、マグロ類(同1.3倍)、カタクチイワシ(同1.3倍)、イワシ類(同1.2倍)、その他イカ類(同1.2倍)、インダイ(同1.2倍)、マルアジ(同1.2倍)、トビウオ(同1.1倍)であった。逆に減少した魚種は、ウルメイワシ(前年度比39%)、マルソウダ(同39%)、イナダ(同45%)、スズキ(同59%)、ブリ(同61%)、ヒラソウダ(同65%)、メジナ(同69%)、その他アジ類(同80%)、ワラサ(同90%)、マアジ(同92%)、カマス類(同97%)、イサキ(同98%)であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は140,850尾(前年度比61%)で、最近30年の中では2番目の好漁であった。漁場別の漁獲尾数では九鬼2号の32,769尾が最高で、次

表1. 全漁場魚種別漁獲量

平成22(2010)年10月～平成23(2011)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	サバ類	1,053,201	18.350
2	ブリ	1,000,789	17.437
3	マアジ	561,436	9.782
4	ワラサ	511,200	8.907
5	イワシ類	459,007	7.997
6	カタクチイワシ	371,410	6.471
7	スルメイカ	226,195	3.941
8	シイラ	213,710	3.723
9	イサキ	137,854	2.402
10	マルソウダ	105,536	1.839
11	マイワシ	100,997	1.760
12	イナダ	76,733	1.337
13	カマス類	72,171	1.257
14	マルアジ	70,544	1.229
15	アオリイカ	65,680	1.144
16	その他イカ類	54,534	0.950
17	マダイ	50,662	0.883
18	ウルメイワシ	45,231	0.788
19	インダイ	43,456	0.757
20	カンパチ	37,908	0.660
21	ヒラソウダ	32,735	0.570
22	サワラ	27,299	0.476
23	ボラ	24,063	0.419
24	ヤリイカ	22,506	0.392
25	その他アジ類	22,203	0.387
26	フグ類	20,154	0.351
27	トビウオ類	19,563	0.341
28	カワハギ	19,088	0.333
29	メジナ	19,047	0.332
30	スズキ	18,301	0.319
31	ヒラメ	18,074	0.315
32	ウマヅラハギ	16,221	0.283
33	ムツ	11,605	0.202
34	マグロ類	10,940	0.191
35	ウスバハギ	7,020	0.122
36	ヒラマサ	5,435	0.095
37	タチウオ	5,202	0.091
38	ヨコワ	2,071	0.036
39	カジキ類	1,898	0.033
40	ハガツオ	1,652	0.029
41	シマアジ	402	0.007
42	その他雑魚	175,884	3.064
合計		5,739,618	100.000

いで錦の25,217尾であった。他に片田でも2万尾を越えた。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられた。4月の好漁が顕著で、最近10年の平均漁獲尾数を約3万尾上回った。4月だけで全体の58%、3、4月では全体の83%、2～5月では全体の99%が漁獲された。全漁場合計の1日の最高漁獲尾数は4月5日の12,949尾、次いで4月17日の11,478尾、4月10日の8,690尾であった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は九鬼2号の10,460尾（4月5日）、次いで同じく九鬼2号の4,167尾（4月16日）、島勝の3,931尾（4月15日）、島勝の3,668尾（4月17日）、九鬼1号の2,581尾（3月10日）であった。

ワラサ（2～6kg未満）の全漁獲尾数は123,618尾（前年度比91%）で、最近10年では平成18（2006）定置年度の236,701尾、平成21（2009）定置年度の135,660尾に次いで3番目に多い漁獲量であった。ワラサの目立った入網は4月と7月にみられ、4月には全体の39.8%に当たる49,178尾、7月に全体の16.2%に当たる20,021尾の漁獲があった。3～5月では全体の61%が漁獲された。4月の好漁時に最も漁獲が多かったのは片田で、4月合計で20,412尾であった。一方、8月の入網は、ここ7年で最低となる12尾であった。全漁場合計の1日の最高漁獲尾数は、4月17日の6,568尾、次いで7月3日の6,187尾、4月22日の5,403尾、4月19日の5,275尾、4月29日の5,265尾であった。1漁場における1日の最高尾数は6,187尾（7月3日）、次いで4,992尾（4月17日）、4,789尾（4月19日）、4,465尾（7月10日）、4,022尾

（2月20日）で、いずれも片田であった。

イナダ（0.5～2kg）の全漁獲尾数は85,516尾（前年度比67%）であったが、当歳魚が主体となる8、9月を入れない集計期間では47,316尾（前年度比37%）であった。平成22（2010）年級群は、方座に偏って入網し、11、12月にみられた。平成23（2011）年級群は、贅と島勝、阿田和で多く入網し、贅で8、9月、島勝で8、9月、阿田和で7月にみられた。島勝では9月11、12日の2日間に合計約1万2千尾、阿田和では、1号、2号合計で7月7、8日にかけて1万3千尾の集中漁獲があった。

ブリ以外の魚種では、サバ類の1,053トン（前年度比1.6倍）が最も多く、平成元（1989）定置年度以降の平均値（476トン）を上回り、平成17（2005）定置年度に次ぐ漁獲量であった。次いで漁獲量が多かったのはマアジで、561トンの漁獲があった。しかし、平成元（1989）定置年度以降の平均値（783トン）を下回っており、マアジは平成19（2007）定置年度の豊漁以降は減少傾向にある。ヒラメは昭和46（1971）定置年度以降で最高漁獲量を更新した。マグロ類は、昭和46（1971）定置年度以降で2位の漁獲量であった。一方、タチウオとウスバハギは、昭和46（1971）定置年度以降でそれぞれ最も少ない漁獲量であった。

関連報文

三重県（2012）：平成22定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。